

令和2年9月 青葉区議員団会議 会議録	
開催日時	令和2年9月4日(金) 午後1時55分～午後3時
場 所	Web会議
出席者	<p>【議長】 赤野たかし議員</p> <p>【議員：9名】 内田みほこ議員、大貫憲夫議員、行田朝仁議員、小島健一議員、田中ゆき議員、平田いくよ議員、藤崎浩太郎議員、山下正人議員、横山正人議員</p> <p>【説明局員：23名】 小澤区長、岡田副区長、勝島福祉保健センター長、吉田福祉保健センター担当部長、渚上青葉消防署長 ほか関係職員</p>
次 第	報告事項 新型コロナウイルス感染症に係る青葉区の対応状況等について（総務課・資料1）
報告事項	新型コロナウイルス感染症に係る青葉区の対応状況等について
発言の旨	<p>山下議員 青葉区の感染状況について、都内に近いという地理的特性上、東京関連、夜の街関連の発生数が7月後半から増えたとのことだが、これはヒアリングによって具体的に判明したのか。</p> <p>勝島福祉保健センター長 ヒアリングでは必ず職場や家族の状況を確認する。その中で東京関連と判明したケースが多い。他には、東京都から、濃厚接触者として横浜市に連絡が入り、検査の結果陽性となったケースも若干ある。</p> <p>内田議員 市内で発生したクラスターについて、より具体的な場所や状況などの情報を早期に公表することはできないのか。</p> <p>滝本福祉保健課長 クラスターに関する情報は市で公表するが、人権への配慮という観点から、個別にどこで発生したという具体的な情報は公表していない。</p> <p>内田議員 今後大きなクラスターが発生した場合、議員団にも知らせてほしい。</p> <p>滝本福祉保健課長 局と調整させていただきたい。</p> <p>大貫議員 感染者の軽症、中等症等の症状別の状況について、しっかりと把握し公表しているのか。こうした状況を把握していなければ、効果的な対応がとれない。青葉区の累計感染者は200人だが、現在の感染者とその症状別の状況についてはどうか。 また、現在保健所に寄せられる相談で多いものは何か。</p>

<p>滝本福祉保健課長・勝島福祉保健センター長</p>	<p>市で症状別の状況を公表しており、無症状が12%、軽症が80%割程度。区では公表していないが、市の状況と同様の傾向にある。陽性者に対しては、保健所が個々の症状を踏まえた対応をしっかりととっている。</p> <p>現在、保健所に寄せられる相談では、陽性者が周囲に発生し、濃厚接触者になった際の対応に関するものが多い。その場合の対応としては、速やかにPCR検査を受けてもらうよう調整する。</p>
<p>大貫議員</p>	<p>区として陽性患者の方々の個々の情報はきちんと把握しておいてほしい。また自分が濃厚接触者になった場合、どうしたら良いのか分からない区民の方も多いと思うので広報をしっかりとお願いしたい。</p>
<p>小島議員</p>	<p>新型コロナウイルス感染症は、指定感染症の2類相当となっており、陽性になると基本的に入院させなくてはならないなど、厳しい条件が課せられている。</p> <p>指定感染症2類相当が外れた場合、インフルエンザ並みの対応になると思うが、今後の方向性等の情報は掴んでいるか。</p>
<p>勝島福祉保健センター長</p>	<p>情報は掴んでいない。</p> <p>現在でも、PCR検査の結果が陽性になったからといって、必ずしも入院というわけではない。肺炎が重症であれば入院、軽症や無症状の場合は、療養施設や自宅療養など、個々の症状に合わせて対応を判断している。</p>
<p>小島議員</p>	<p>指定感染症2類相当が外れると、だいぶ変わってくると思う。早くこのような状況をなくすよう私としても努力していきたい。</p>
<p>横山議員</p>	<p>接触状況確認アプリ「COCOA」に登録すると、感染者と接触があった場合に通知が届くなど、感染拡大防止に一定の効果が期待できるが、普及しているとは言い難い状況。世間の関心が高い市の感染者情報等のページにこのアプリへのリンクを貼るなど、積極的に推奨してもらいたい。</p>
<p>滝本福祉保健課長</p>	<p>「COCOA」の接触情報からの問合せも区に寄せられている。区ホームページからリンクを貼る等、局と相談して検討する。</p>
<p>横山議員</p>	<p>鶴見、港北、青葉区は東京と近接するため、感染者数が多いので、区としても積極的に取り組んでほしい。</p>

藤崎議員	<p>他区に先駆けたオンライン会議の開催は良いこと。現在、区の会議は基本的に全てオンラインというレベルまで来ているのか。また、区づくり推進横浜市議員への他区の導入状況、区長会での導入状況はどうか。</p>
吉田福祉保健センター担当部長	<p>既に多くの会議をWEBで開催している。例えば、ケアプラザ施設長会、医師会、介護関係事業者が集まる顔の見える場づくり会議など、月単位、週単位で様々な打ち合わせしている。そのほか、起業支援講座など実施している。また、多くの方がWEB会議を利用できるよう、仕組みや操作方法等について、事業者、自治会、区役所職員向けの研修会も開催している。</p>
小澤区長	<p>区づくり推進横浜市議員をWEB会議で実施したのは3区。他の区はWi-Fiの環境、タブレット端末等がないなどの理由で実施していない。ただ、いずれの区も庁外とのWEB会議については重点事項として取り組んでいる。相当なスピードで体制は整いつつあると感じている。</p> <p>庁内用のWEB会議については、既に環境は整っており、区長会も2度実施している。ただ、会議室の枠が限られており、今後拡大を検討すると聞いている。</p>
行田議員	<p>新型コロナウイルスの感染拡大により、職を失った方が5万人いる。横浜市会でも緊急雇用が議案に上がっているが、区的生活支援課のハローワーク端末の利用状況はどうか。これまでハローワークを利用したことがない方に対しても、しっかりと周知していくことが必要。</p>
繁田生活支援課長	<p>ハローワーク端末の利用については、一定程度の混雑はあるが、逼迫している状況ではない。</p> <p>社会福祉協議会の貸付を受けている方が、延長を希望する場合、生活困窮制度につなげるという制度改正があった。このような場合は生活支援課につながるため、ハローワーク利用の要望があれば案内している。様々な形で区のジョブスポットの活用につなげていきたい。</p>
田中議員	<p>区福祉保健センターの体制について、人手不足の状況にないか。特に夜間の電話対応等はどのようにしているのか。</p>
勝島福祉保健センター長	<p>青葉区は横浜市の中で一番感染者数が多いという状況にある。一人陽性者が発生すると、その家族や勤務先など、周囲の濃厚接触者の調査・PCR検査等の調整をしなければならず、相当な時間を要する。こうし</p>

	<p>た状況に対応するため、会計年度任用職員を増員し、7名から9名体制となった。夜間は、職員が在席している場合は対応するが、21時を過ぎた場合は、基本的に翌日に相談してもらっている。</p>
田中議員	<p>青葉区ホームページでは、大型台風接近時の開設避難場所が18か所となっている。資料の19か所という記載と異なるがどういうことか。</p> <p>また、分散避難の周知について、区民に確実にいきわたるよう広報・掲示をしていくべき。現状では、情報にたどりつきにくい。</p>
守屋総務課長	<p>大型台風接近時の開設避難場所について、基本的に台風による浸水対応だけであれば18か所だが、崖崩れの可能性もあり、土砂災害の危険性が高いところ（即時勧告対象区域）についても開設を考えているため、さらに1か所で合計19か所。</p> <p>分散避難の広報については、市と区のホームページのほか、携帯電話を使った防災のアプリでも発信をしている。また、「広報よこはま」の9月号でも掲載しているほか、自治会長向けにも広報している。</p>
赤野議長	<p>夏場では、例えば熱中症など、様々な患者がいると思うが、新型コロナウイルス感染症によって救急搬送に何か影響が出たか。</p>
湊上青葉消防署長	<p>コロナ関係の救急搬送はあるが、通常の救急活動に支障があったということはない。全体的に救急件数が前年度に比べて1割ぐらい減っている状況。</p>